

仙台市交通事業経営計画（素案）の概要

資料 2（机上配布）
令和 2 年 9 月 3 日

1 計画策定の経緯

生産年齢人口の減少、新型コロナウイルス感染症による利用者の減少など、極めて厳しい経営環境の中にあって、市バス・地下鉄を、市民の身近な公共交通機関として安定的に維持していくための経営の基本的な方針と具体的な取組み、財政計画等を取りまとめました。



2 これまでの事業の振り返り

(1) 乗車人員と乗車料収入、純損益、資金不足の推移

< 自動車運送事業 >

- 乗車人員 ピークの 1/3
- 乗車料収入 ピークの 1/2
- 平成 19 年以降 純損益が赤字
- 平成 25 年以降 資金不足が発生

< 高速鉄道事業 >

- 南北線、東西線それぞれで乗車人員、乗車料収入が年々増加
- 平成 28 年以降 東西線開業に伴う費用の増加により純損益は赤字

(2) これまでの取組み

厳しい経営状況に対応するため、安全運行を第一としつつ、サービス向上や経費削減に向けて取り組んできました。

< 主な取組み >

- 給料表の見直し（両事業共通）
- バス運転業務等の管理の受委託（自動車運送事業）
- 駅業務の委託（高速鉄道事業）

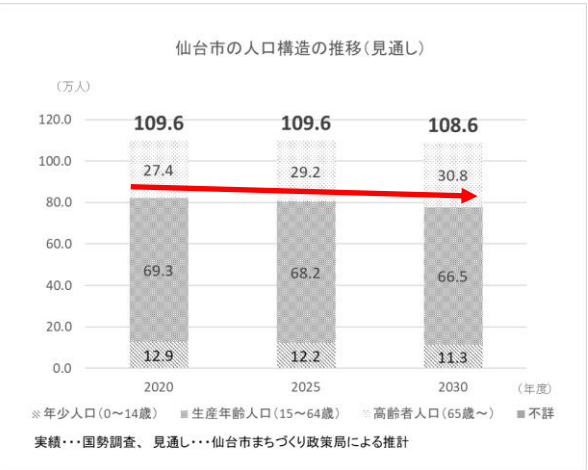
(3) 「仙台市自動車運送事業経営改善計画」の振り返り

- 需要に応じた便数調整
- 一部運賃の見直しなどの施策

着実な成果
平均乗車密度の向上
資金不足比率の抑制

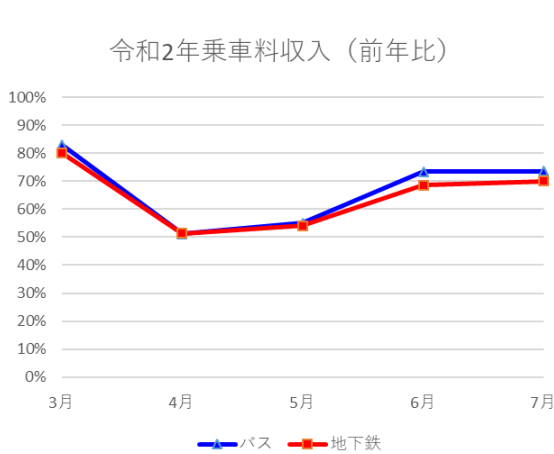
3 事業を取り巻く環境と課題

(1) 仙台市の人口動態



生産年齢人口（15～64 歳）が減少の見込み
⇒通勤・通学利用者の増加が見込めない

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響



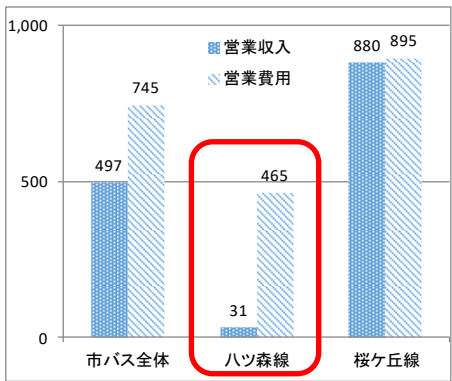
- 令和 2 年 3 月から減少傾向が顕著
- 4~5 月の利用者数は対前年度で半数程度
- 7 月時点で前年度の 8 割近くまで回復
- ⇒新生活様式が浸透していくことを踏まえると、回復には相当な期間を要する見通し

(3) 自動車運送事業の経営課題

バス課題 ①

極めてお客さまの少ないエリア
⇒トリップ規模に応じた適切な交通手段への転換が必要

走行 1km あたりの営業収支（H30 決算、単位：円）



バス課題 ③

現行運賃水準では事業費をまかなえておらず、このままでは、資金不足比率が経営健全化団体の判断基準である 20%を大きく超過

	令和元年度 (決算見込)	令和 12 年度 (推計)
営業収益	67	66
営業費用	98	100
累積欠損金	△57	△123
資金不足比率	4.3%	58.3%

(単位：億円 税抜)

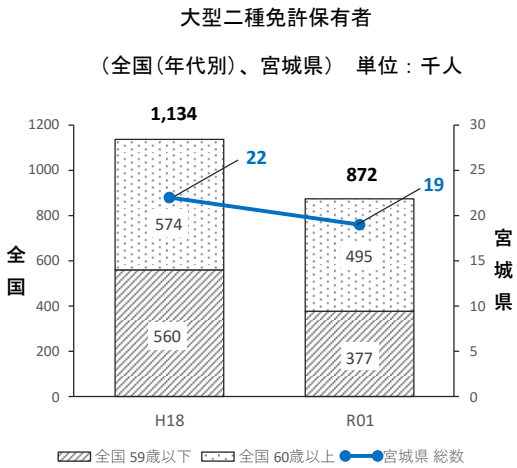
バス課題 ②

地方公営企業は独立採算が原則。
将来にわたり現在と同水準の繰り入れを見込むことは難しく、持続的な経営のためにも一般会計補助金依存からの脱却が必要。



バス課題 ④

大型二種免許の保有者の減少および高齢化



(4) 高速鉄道事業の経営課題

地下鉄課題 ①

南北線車両や各種施設設備の更新が必要



地下鉄課題 ②

資本的支出の増大にあたり経営の引き締めが必要

東西線に係る企業債償還
10 年間 700 億円以上
南北線更新による大規模投資

地下鉄課題 ③

将来の累積欠損金解消に向け、運賃改定の必要性の検討が必要



仙台市交通事業経営計画（素案）の概要

4 経営計画の全体像

これまでの取り組み経過や事業を取り巻く環境などを踏まえ、下記の基本方針と財政目標を掲げました。

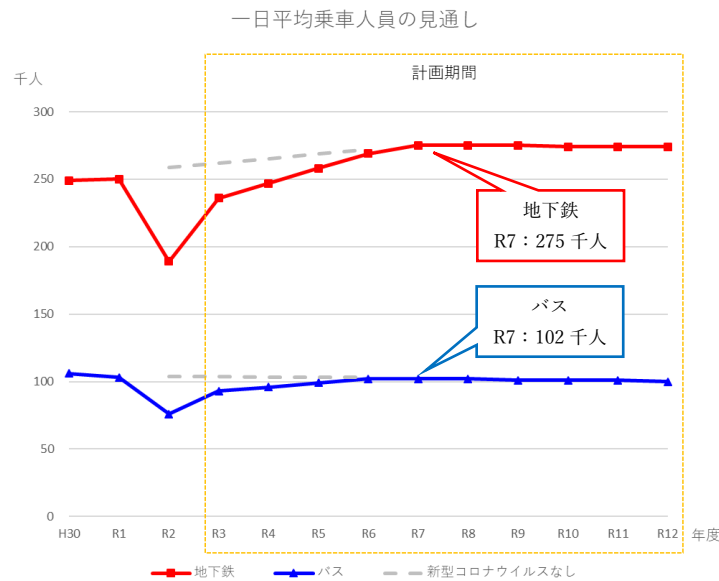
共通	バス	地下鉄
- 安全、安心の確保 - 市役所各局区連携のもと利用促進 - バス、地下鉄の連携強化 - 本市まちづくりへの貢献 - 分かりやすい情報発信 - 危機・災害対策	- 地域交通との役割分担 - 需要に応じた運行 - 適切な運賃水準の設定 - 一般会計補助金の抑制	- 沿線まちづくりとの連携 - 経営の引き締め - 運賃改定の必要性等の検討 【財政目標】 ・単年度損益黒字化 ・累積欠損金の低減 ・資金収支の均衡
		【財政目標】 ・走行1kmあたりの収入増 ・資金不足比率20%未満 ・一般会計補助金繰入額の抑制

5 事業内容

1 安全・安心の推進		
取組 1 安全運行の確保	・ 運輸安全マネジメント制度に基づき、安全管理の継続的な改善に取り組みとともに、関係機関と連携した啓発活動を実施し、安全・安心なご利用環境づくりを推進します	・ 研修、訓練の実施 ・ 運転技術の向上と安全運行の徹底など
取組 2 危機・自然災害への対応	・ 地震や異常気象などの災害時およびテロや感染症発生時の対応力を強化し、お客様の安全の確保ができるよう、適切な情報提供をはじめ、関係機関と連携した防災訓練に継続的に取り組むなど、備えを強化します。 ・ 安心してご利用いただけるよう、万全の感染症対策に取り組みます。	・ 各種対策、訓練の実施 ・ 計画運休 ・ 感染症対策など
取組 3 施設設備の計画的な更新	・ 市バス・地下鉄の車両や設備について、施設の計画的な保全による長寿命化や経常的な経費の削減に取り組みつつ、安全性を確保し将来にわたり良好に維持できるよう計画的な更新に取り組めます。	・ バス車載機、営業所建物の更新 ・ 南北線車両更新等各種施設設備の更新 ・ 構造物の長寿命化など
2 快適なお客さまサービスの提供		
取組 1 乗車サービスの向上	・ お客様のニーズを適切に捉え、サービスの充実と改善に取り組むことで、より多くのお客様に御利用いただけるよう取り組みます。	・ 情報提供の充実 ・ 接客サービスの向上 ・ icscaシステムの安定的な運用など
取組 2 利用しやすい環境整備	・ 交通事業の根幹である乗車料収入を確保するには、より多くのお客さまに乗りいただけるよう、快適なサービスの提供が必要です。従前の取り組みに加え、ICTも広く活用し、お客さまの利用しやすい環境整備に取り組んでいきます。	・ 分かりやすい案内サイン ・ バス待ち環境の向上 (バス停上屋の整備・接近表示) ・ 南北線地下鉄駅におけるホームと車両間の隙間と段差の解消など
3 まちづくりへの貢献		
取組 1 まちづくりとの連携・社会への貢献	・ 公共交通事業者として、多様なお客様が快適に御利用いただけるよう環境整備に取り組むとともに、地球環境に配慮しながら、市民の暮らしと都市活動を支えます。	・ まちづくり施策・観光施策との連携 ・ バリアフリーの推進 ・ 人とまちに優しいバス車両の導入など
取組 2 関係機関と連携した利用促進	・ 東西線沿線人口は、沿線まちづくりの進展によって計画期間中も増加基調が続くと見込まれ、地下鉄の乗車人員増につなげられるよう、沿線まちづくり施策との連携を密にし、各種事業を推進します。 ・ 関係機関との連携・タイアップ等により市バス・地下鉄のイメージアップや利便性のPRを行うことで、利用促進に取り組めます。	・ MaaSの取り組みとの連携 ・ イメージアップ事業の推進（タイアップ） ・ 地下鉄沿線の地域、イベント、施設などとの連携など
4 持続可能な経営の確保		
取組 1 経営基盤の強化・経営の健全化	・ 市バス・地下鉄両事業が一体となって、運行の効率化などを推進し費用を低減させるとともに、既存資源の有効活用などで収入増加を図り、持続可能な財政運営に取り組めます。	・ 利用状況に応じた運行の効率化 (一定エリアの路線廃止、便数調整) ・ 運賃制度及び運賃水準の検討 (税負担と料金負担の適正化) ・ 経営改善によるバスの一般会計補助の抑制など
取組 2 人材の育成・確保	・ 市バス・地下鉄両事業を安定的に運営していくための体制を整えるとともに、職員が十分に能力を発揮できる職場づくりなどを行い、組織力および職員力の向上に取り組めます。	・ 安定的な人材確保 ・ 次世代の職員の育成と技術の確実な継承 ・ 職員の働きやすい環境づくりなど

6 財政収支計画

【乗車人員の見通し】



【収支見通し】

注：収支見通しは令和2年8月時点の暫定版であり、今後の予算編成や乗車人員の回復状況等に応じて、計画最終案までに更新を行います。

(単位:億円)

自動車運送事業		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
収益 の 収 支	営業収益	61	63	65	66	67	71	71	70	70	70
	うち乗車料収入	59	60	62	64	64	68	68	68	68	67
	営業外収益ほか	29	47	33	22	29	26	27	26	24	22
	収益	90	110	98	88	96	97	97	97	95	92
	営業費用	100	98	101	99	101	99	97	94	94	94
	費用	101	100	102	100	102	100	99	96	96	95
	当年度純損益	△ 10	10	△ 4	△ 12	△ 6	△ 3	△ 1	1	△ 1	△ 3
資本 の 収 支	資本の収入	12	16	26	26	12	12	10	10	9	10
	資本の支出	18	24	35	35	23	27	24	24	20	18
	差引	△ 6	△ 8	△ 9	△ 9	△ 11	△ 14	△ 14	△ 14	△ 11	△ 8
資金不足額		10	△ 6	△ 9	△ 2	△ 1	2	6	9	12	13
資金不足比率		16.5%	△9.0%	△14.1%	△2.5%	△0.9%	3.3%	8.9%	12.3%	16.6%	18.1%

高速度鉄道事業		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
収益 の 収 入	営業収益	163	171	179	186	190	190	190	190	189	189
	うち乗車料収入	149	156	164	170	174	174	174	174	173	173
	営業外収益ほか	45	43	42	40	39	38	36	36	36	35
	収益	208	214	221	226	229	228	227	226	225	224
	営業費用	200	195	193	197	200	201	198	196	194	193
	費用	215	209	206	210	211	212	208	206	203	201
	当年度純損益	△ 7	5	14	17	18	17	18	20	22	24
資本 の 収 入	資本の収入	26	30	20	50	76	70	71	54	51	76
	資本の支出	105	110	100	129	155	153	156	144	141	173
	差引	△ 79	△ 80	△ 80	△ 79	△ 79	△ 83	△ 85	△ 91	△ 90	△ 97

※収益の収支は消費税及び地方消費税抜き、資本的収支は消費税及び地方消費税込み

※端数処理により、合計等が合わない場合がある